マイクロソフト

ユーザーレベルに応じたデータと分析手法を提供するマイクロソフトのBIソリューション

ビジネス環境を勝ち抜くために必要な３つのポイント

変化の激しいビジネス環境において、競争力を保つためには、スピード感のある経営体制のもと、既存顧客に対してのサービス向上と新規顧客獲得に向けた高付加価値サービスの提供を実行していくことが不可欠である。そのためには、顧客ニーズを的確に把握することができるデータ分析システムが必要である。

マイクロソフトは、このような課題を解決するためには、データ分析システムを構成するデータウェアハウス（DWH）とビジネス・インテリジェンス（BI）ソリューションに、次の３つのポイントが含まれていることが重要であると考えている。

①定型処理の自動化

企業が抱える課題の多くは人間系処理に起因しているため、定型処理の自動化を実現するツールの導入がポイントとなる。

②データ活用シナリオの改善

２次加工等を含むデータの活用度合いを高めるためには、ユーザーのレベルに応じた様々なデータの提供形態および分析手法の提供がポイントとなる。また、その際には、特別なユーザー教育を必要とせず、使い慣れたツールであることもポイントとなる。

③セキュリティの強化

ユーザビリティを損なわずにセキュリティの強化を実現するためには、既存のITインフラの認証基盤と統合できるセキュリティソリューションの導入がポイントとなる。

このようなポイントを踏まえて、マイクロソフトは、Microsoft SQL Serverを核としたBIソリューションを提供している。

定型処理の自動化を低コスト／短期間で実現

先進的な機能と世界最高レベルの可用性を備えたリレーショナルデータベース管理システム（RDBMS）であるSQL Serverは、小規模からエンタープライズクラスの大規模システムまで、あらゆる規模のシステムに対応した企業や組織の意思決定を支えるDWHをはじめ、オンライントランザクション処理、e-コマースなどのインターネットビジネスに最適なデータベースプラットフォームとして、これまで数多くの稼動実績を残している。またSQL Serverは、RDBMSとしての機能とともに、RDBからデータを抽出、洗浄、変換、加工、転送することができるデータ変換サービス（DTS）と、Analysis ServicesやReporting Servicesを利用することで、ビジネスユーザーの迅速な意思決定を支援するBIソリューションとして利用されている。

Analysis Servicesは、オンライン分析処理（OLAP）機能やデータマイニング機能など、高度なデータ分析によるBIを実現する統合データ分析サービス機能。一方Reporting Servicesは、レポートの作成、管理、配布などをサポートするサーバプラットフォームとして、SQL ServerのBI機能とDWH機能を強化するものである。またAnalysis ServicesとReporting Servicesは、ともに普段利用しているOffice製品やWebブラウザ、その他の業務アプリケーションを通して、情報をリアルタイムに提供することができる。また、これら機能は標準機能として追加費用無く利用できるため、分析および定型処理の自動化を低コストかつ短期間で実現することができる。

使い慣れたツールで データ活用シナリオを改善

マイクロソフトのBIソリューションの特長は、使い慣れたExcelやWebブラウザを利用して、ユーザーのレベルに応じたデータ提供形態と分析手法を提供していることである。図1は、ユーザーレベルに応じたデータと分析手法を表わしたものである。各レベルに対応した分析ツールの概要は次のとおりである。

◆ **Excel Add-in for Analysis Service：**Excelをインタフェースとした高レベルなレポート作成機能を提供する手法。ピボットテーブルにより、さらに高度な分析を行うことができる。

◆**ピボットテーブルサービス（Excel標準）：**分析クライアントアプリケーションとして、Excel 2000以上で利用可能な操作性の高い多次元分析機能。Excelをインタフェースとした定型的な分析に最適。

◆**Office Webコンポーネント：**ピボットテーブルサービスをWebブラウザ上で実行するためのコンポーネント。Office Webコンポーネント・ファイルをWebサーバ上に配置することで、イントラネットシステムとしても利用できる。

◆**Reporting Services：**任意のファイル形式（Web・Excel・PDF等）でレポートを参照することが可能。レポートは定期的にメールや共有フォルダに配信。大量ユーザーへの簡易的なレポートを提供するのに最適。

◆ **Microsoft Office Business Scorecards Accelerator（エグゼクティブ向けポータル）：**エグゼクティブ向けに各種指標（KPI）の直感的表現を可能にするフレームワーク。

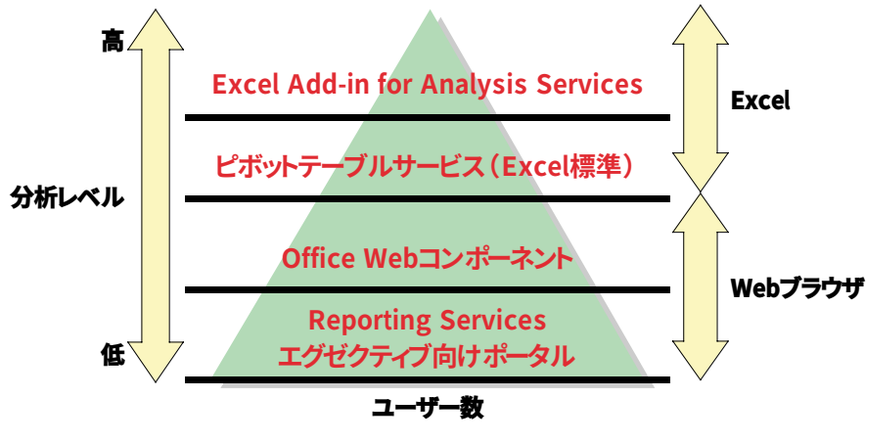

図1　ユーザーレベルに応じたデータと分析手法

このように普段使い慣れたExcelやWebブラウザのみを利用して、データを提供／分析するので、ユーザーは特別な教育を受ける必要がない。

Active Directoryとの統合で セキュリティ要件を充足

マイクロソフトは、クライアント管理に対するノウハウを結集した認証基盤であるActive Directoryを中心とした一貫性のあるセキュリティ対策を提供しているが、このActive DirectoryとBIソリューションを統合することで、ユーザビリティを損なうことなく、次のようなセキュリティ要件を満たすことができる。

◆**セキュリティポリシー：**適切なアクセス制御とアカウント権限を設定し、データやネットワークに対して暗号化等の対策を実行することができる。

◆**アクセス制限：**Analysis ServiceやReporting Servicesなどは、それぞれActive Directoryのユーザー情報と連携して、ユーザーのセグメント別に必要なデータとセキュリティを提供することができる。

◆**アクセスログ：**SQL Serverの各種監査機能を利用することができる。

2005年中に製品出荷を予定しているSQL Server 2005では、データベース冗長化機能の強化や64ビットプラットフォーム対応によるスケーラビリティと信頼性、ELTとデータマイニング等の機能が強化された。マイクロソフトのBIソリューションは、ビジネス課題を解決する3つのポイントを踏まえて、ユーザーの“使いやすさ”を追求したソリューションである。

お問い合せ先
マイクロソフト株式会社
通信・メディアソリューション本部
TEL：03-4523-3730（部門代表）
URL：http://www.microsoft.com/japan/serviceproviders/